

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200246		
法人名	株式会社 大洲産業		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	熊本県八代市昭和日進町字会通152-3		
自己評価作成日	令和2年 1月7日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokennsaku.jp/43/inndex.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年 1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設7年目に入り、当時の利用者もおと様替わり、まだまだ戸惑いはありますが、利用者様の「やりたい」「行きたい」「食べたい」などの要望を大切にして日々の生活が楽しく遅れるように心がけています。2回目の看取りでは、訪問看護さんのご協力があり、食事の時の異性や、苦痛にならないような触れ方なども学び、利用者様の気持ちに寄り添えるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えたホームでは、これまでの姿勢が地域での評価につながり、近隣住民との普段の付き合いや独居高齢者の拠り所として交流を続けるなど、自然に受け入れられている。朝から手際よく洗濯物を干される入居者や、臼を使った念願の餅つき会で若い職員に手ほどきをされるなど、長年の経験はホーム生活の至る所で生かされ、入居者の自信や誇りともなっている。リビングでは入居者が半円を作り、座ってできる体操や職員との会話に笑い声がもれ、普段のこまを見ることできる。同業者との研修の機会は情報交換の場となり、互いに自己を高めながら、入居者支援に反映されている。本人・家族の思いに応え最終までを支援しており、入居者にとって「今のこの時間」が重要であることを、全職員で共有していることが、カンファレンスの資料などからも窺うことができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念も踏まえスタッフ同士で話し合ったり、個人的に面談をして(反省点などを出し具体的な目標を書いてもらう)見える所に貼り意識付けをしている。	本年度は開設時からの理念を今一度振り返り、4項目の内容一つひとつについて話し合う機会を持っている。年度初めに職員は個人目標を立てており、目に付くところに掲示して、日々のケア指針としながら自己評価を行っている。管理者は法人異動により着任した職員やあらたな入職者に対して、理念を通じホームの歩みを紹介している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前から行っている、保育園や、小学校との交流会も毎年続いており、利用者様も喜んで参加されておられる。秋祭りでも婦人部の方の参加され踊りなど賑やかにしてくださっている。	ホームは地域の中の一員として清掃活動などに参加している。野菜のやり取りや散歩中の雑談、独居者の相談事に応じるなどこれまでの付き合いを継続している。地元保育園や小学校との交流は続いており、子どもたちの元気な姿を心待ちにされている。本年度は中学生のナイストライが中止になったものの、認知症の応援隊ともゆうべき「RUN伴」では、入居者・家族、地域が一体となってリレーを盛り上げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は「認知症になっても安心して暮らせる町づくりを」という事で、RUN伴を開催。八代市の地域密着型の事業所が集まり、利用者様・ご家族。支援者・一般の人が一つのタスキをつなぎゴールし皆さまのご協力と笑顔がチカラになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所からの集団指導もあり、行事などの報告だけではなく、事故報告やヒヤリハット提出の状況、またスタッフの退職・入職状況なども記載するようにした。それからは質問や解決法なども出ている。	会議はホームリビングを会場とすることで、入居者をはじめ当日の出勤職員が同席し、行政や包括、地域や家族など多数の参加・協力が得られている。趣向を凝らした会議であり、秋祭りや暮れの餅つきを取り入れた参加型の会議としたり、看取り支援後のカンファレンスを通し、支援内容や経過報告、家族や関係機関との連携、支援後の職員の思いなどを紹介している。参加者からはテーマごとに様々な意見や質問があがっており、推進会議本来の地域とのパイプ役として有意義に運営されている。	今後も運営推進会議で出された内容を全職員で共有し、サービスの向上に活かされるていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃からも運営推進会議や身体拘束適正化検討委員会などでも包括や市役所さんにも研修をして頂いたり、こちらの相談も聞いてくださり解決へ導いてくださる。今年は実地指導もあり、手厚くご指導頂いている。	行政や包括からの運営推進会議への参加により、入居者の普段の姿を見てもらいながら、意見や質問を受けている。管理者は事故報告書の書き方や、ベッドを壁付けにした場合の問題点などについて意見を仰ぎ、支援に反映している。実地指導で指摘を受けた看取り支援の記録方法などについて、さらに検討し、改善をしていくとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修で学んだ事を持ち帰り、スタッフ全員で考えるように職場でも行っている。虐待の芽チェックをしてもらい、どんな事を注意しないといけないのか？言葉遣いなどスタッフで話し合い、身体拘束適正化検討委員会で報告している。	身体拘束の指針のもと、年4回の適正化委員会では特に時間を割き、不適切ケアの自己チェック後の課題検討などをおこなっている。「あ～んして！」「おいで！」などの幼児語に対して、まずは敬語で話すことから始めるよう、入居者の尊厳について共通認識を新たにしている。地域の同業者でつくる活動には法人全体で参加し、定期的な研修プログラムにそってレベル向上を目指しており、身体拘束や虐待の研修内容はホーム全体で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフには研修会に参加してもらったり、職場内でもカンファレンスを行い利用者様の状態やスタッフの考えなどを聞き、対応策なども話し合い虐待のないよう努めている。ご家族にも状況を説明し方向性や対応策のご相談をさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの方の成年後見制度の研修がわかりやすかったので、身体拘束適正化検討委員会でご家族や地域の方にもお話しをして頂いた。難しく考えていたが、理解できたとスタッフの声もあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、入居後も面会時などでもおご家族の思いや、不安などを聞いてスタッフにも伝え統一したケアに努めている。経済的面で不安がある場合も早めの対応が必要だという事を今回勉強させられた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、管理者やスタッフが利用者の状態報告をし、ご家族の希望・ご意見を聞くようにしている。運営推進会議などでも、地域の方、市役所、包括の方々にも相談をしたり、助言を頂いている。	家族がホームに足を運ぶ機会は多く、職員は入居者の近況を伝えながら要望を聞き取っている。家族からは職員の日々の支援に対して、感謝の言葉が寄せられている。入居者の「好きだった山にいつてみたい！」との要望にドライブを兼ねて出かけ、安心してもらうなど個別の希望に応じるよう努力している。	家族が行事などを通じ顔を合わせる機会は多く、交流にもつながっていることから、家族会の発足が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回と日々のカンファレンスを行い、スタッフの意見を聞いたり、飲み会を開催してみたり、個別に面談をする時は、褒める所、指導する所とどちらも言えるように心掛けている。	ホームでは働きやすい職場作りに努力しており、個別の支援目標は個々のモチベーションにつながり、目的をもったケアが実践されている。希望休や有休への対応、専任者による月10日の夜勤対応は職員の負担軽減および、確実な申し送りの徹底など人員配置にも工夫している。管理者は個人面談により職員意見を吸い上げ、運営者へ声をあげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの希望に沿って労働時間を考えてもらったり、休み希望や、研修会の参加手当・残業手当などもあるため、働きやすい環境である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会やスタッフ同士のカンファレンスを行い、一人一人スタッフの思いを聞くようになっている。訪看さんのご指導もあり、スタッフ間で話し合い統一している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は地域密着型の施設さんとも信仰を深め、くまがわ祭りやRUN伴・写真展・なども協力して頂いたり、交流を深める事でスタッフのスキルアップにもつながっている。月に1回ずつ八代のGHの研修・合同研修会の参加もひき続いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情などの観察、要望に耳を傾け、スタッフやご家族さまに相談をしたり、気分転換に外出を試みたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事や不安な気持ちを聞くように心掛けている。面会に来られた時は要望がないか尋ねたり、利用者様の状況を報告したり、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族の情報をもとにスタッフと話し合い、本人様にとっていい環境で過ごせるよう検討している。判断に困った時は上司や同じグループホームに相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・たたみ・盛り付け・草取りなど利用者が率先して手伝ってくださり、とても助かっている。利用者は目上の方という事を忘れず、スタッフには言葉かけに気をつけるように伝えている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ本人様の状況をお伝えしたり、ご家族様の名前を言われる際は、お電話や後日面会をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご協力もあり、以前までおられたデイサービスへ週に1回囲碁をしに出掛けられている。また、お知り合いの方が移動販売をされており、こちらで使う食材を注文させて頂けることになり、交流を深められている。	入居者が依然利用していた施設へ引き続き趣味の囲碁をしに行かれており、送迎は家族が協力している。現在、理美容支援は主に訪問としているが、希望者には外出がてら馴染みの店に出かけている。移動販売車による注文食材の配達も行われており、入居者は新鮮な食材を目にしなが、新たな関係性もできている。家族の支援による盆・正月の外出や外泊も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様がよく観察されておられ、寝ている利用者様にそっと毛布を掛け「寒くなか？」など温かいお声を掛けてくださる方、笑顔で皆さんを癒してくださる方といらっしゃる、私たちに居心地の良い空間を作ってくださいと思っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方も、ご家族様と連絡を取りご面会に行かせて頂いたり、看取りをされたご家族の方ともご連絡をとらせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人生活のリズムを把握し、ご家族に相談しスタッフと話し合い、声の掛け方、利用者様の表情などを見て、ケアに取り組んでいる。	現在、全入居と意思疎通が図られており、職員は普段のかかわりの中に、外出の希望や暮らし方について思いを聞き取るようにしている。管理者は日々の支援に慣れてしまっている自分自身を振り返り、新鮮な気持ちで入居者と向き合いたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族にこれまでのお話を聞かせて頂いたり、何気ない会話の中からの気づきや発見があったりしたときは、スタッフ間で共有仕合、サービスの利用に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様に合わせてお手伝いをお願いしたり、買い物、ドライブなど本人様の要望に応じられるように心掛けている。希望を言えない利用者様には、スタッフと情報共有しながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題と本人様の希望をあげてカンファレンスで、どんなことが必要かケアマネジャーを含め考えご家族とも話し合い、ケアを行うようにしている。	プランには入居者の素直な気持ちをそのまま記し、「ここで長生き出来たらうれしい」など、ホームでの生活ぶりがうかがえる言葉が載せられている。入居間もない方にはアセスメントから、新しい環境にゆっくりと慣れてもらい、日々の生活にハリやゆとりがもてる暮らしをプランニングしている。担当職員を中心に評価をおこない、入居者の現状に照らしながら継続や変更内容を検討して、プラン説明時に家族にわかりやすく伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況はなぜ出来なかったのか、それはなぜか？どうしたらできるか？工夫や気づきを詳しく記録に残して欲しい。大事な事を書いてなかったりがよくある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のご協力のもと、週1回は他施設へ囲碁に連れて行って頂いたり、歯科衛生士さんによる嚙下訓練、訪問看護にご相談など良いご指導を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園・小学校・婦人部の方には毎年交流をして頂き、利用者も喜んでくださっている。GH同士のつながりも深まっており、行事の参加などもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様のご了解を得て病院受診は出来るだけ、ご家族が行ってもらえるようお願いをしているが、スタッフも同行が必要な時は一緒に受診をしている。受診が困難な方には入居時に往診Drをお勧めしている。	入居時にかかりつけ医について確認を行い、家族による受診がおこなわれ、必要に応じ職員も同行している。中には往診の可能な医療機関に変更される方もおられる。緊急時や看取り支援の対応が可能な医療機関を希望される現状である。職員はバイタルチェックをはじめ、日頃のかかわりから健康状態を把握し、気になる点は往診時や電話連絡などにより相談や指示を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護さんには緊急時の相談や週に一回健康チェックに来て利用者様の状況や小さな気づきなどの報告やご指導をいただいている。看取りの時には毎日点滴・吸引・清拭など協力して頂き、スタッフも不安なく看取りが出来たと思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	清流も7年目になり、入院される利用者様も増えているため、地域連携室の看護師や往診Drや看護師と今後の対応など相談にのっていただいている。利用者様の異変に気付いたら、すぐ相談するように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Drやご家族との話し合いの場を設け、方向性についてもご家族に何度も相談したり、状況を報告するようにしている。常時看護師がいるわけではないため限られてくるが、食べたい物や本人様の気持ちに寄り添えるよう出来るだけの事をスタッフとも話し合いながら行っている。	入居時に終末期支援に関する方針を伝え、その時点での本人・家族の意向を確認し、その後も状況に応じて家族との話し合いを行っている。昨年9月に1名の看取りを支援している。運営推進会議では、「看取りを通して反省と気づき」として食事や褥瘡、口腔ケアなどについて報告をおこなっている。看取りに関する研修会については、連携を図っている他、事業所との合同研修や地域部会の研修会に参加している。	本人・家族の思いを大切に医師との連携を図りながら看取り支援がおこなわれている。今後は職員の気づきや反省に加え、家族の気持ちについてもアンケートなどで確認し、今後につなげていかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会で応急手当やAEDの使い方、誤嚥した時の対応などを訓練した。新しいスタッフも加わったので訓練に参加してもらい、いざという時に身に付けてもらいたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災士の方の研修会で災害時の机上訓練をほとんどのスタッフに参加してもらい色々な状況で考えてもらった。避難経路は作成したが実際はどうなのか？疑問もあった。こちらの地域では水害の危険が大きいと聞いていたので、次回は運営推進会議で地元の方々と意見を出し合って考えたい。	今年度は6月に総合訓練を実施し、2回目を3月に予定している。他の事業所との合同研修では、防災士による災害時の机上訓練に参加し、有事への対応や心構えについて学んでいる。今後は運営推進会議の中で水害について意見交換を検討している。ホーム内には、「八代市地域防災マップ昭和校区周辺」とし、地震危険度、高潮浸水想定、津波浸水などの7項目のマップが掲示されている。	今後は運営推進会議の中での災害訓練や、家族へも参加協力を依頼して開催することもよいと思われる。また、災害時の避難先の検討や備蓄として確保している水やカップ麺、ガスコンロ以外についても備えていくことが必要と思われる。ホーム内に掲示されている防災マップに、ホームの位置を記すことでよりわかりやすくなると思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの関係になってしまい、言葉遣いも気になる事もある。スタッフとのカンファレンスで言葉遣いやスピーチロックについての話し合いも行ったが、時間と共に元に戻るため、日々の話し合いやその場での指導が必要になっている。	職員は入居者の身近な存在として必要な支援に努めているが、馴れ合いの言葉使いなどを課題としてあげ、カンファレンス時にはスピーチロックを含め、周知する機会をもっている。身だしなみやおしゃれの支援については、定期的な理美容支援や季節に応じた衣服の着用、希望に応じたお化粧品などをサポートしている。	馴れ合いの言葉使いなどについては、あらたまった研修の機会に限らず、月や週目標にあげ、朝礼時に共有を図り一日をスタートしたり、終礼時に振り返る機会を持つことも有効と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思を確認するようにしている。自己決定近づけるように、スタッフの声かけなどももう少し工夫が出来たらと感じる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かする時は利用者様に尋ねて行うようにしている。ここ最近では、自己決定を優先してしまうがゆえに？生活のリズムとしてはどうなのか？などケアの戸惑いもある…		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出掛けや行事の時には化粧をしてもらったり、本人様の希望を聞いて散髪へ外出したり、髪染めをこちらで行っている。爪切り・髭剃りと忘れていた事もあるため、スタッフ同士で声掛け合っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや御茶碗拭きなども率先してお手伝いしてくれる方がいらっしゃられるので助かっている。行事メニューでは本人様の希望を考えたご馳走メニューで喜んで頂いているが、日々のメニューではスタッフの意向の献立になっているように感じられる。	入居者に季節感のある美味しい食事支援を提供できるよう、法人全体で献立を検討し、食材は専門店からの配達を中心に利用している。ご飯に汁物、小鉢二品を基本にデザートなども添えている。また、行事食や甘酒なども手作りにこだわり、毎食を楽しみにされている。ミキサーやキザミ食の方が多くなっているが、職員は見守りや介助を行いながら同じものを摂っており、和やかな食事の時間であった。	盛り付けなど引き続き入居者のできることで食への関わり方を支援いただきたい。また、職員も同じものを摂っており、今後も入居者の思いを組み取った献立作成や、喜んでもらえる食事支援の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲低下してこられた方には、本人様の食べられる物や口当たりが良い物やご家族に相談し栄養補助食品を取り入れ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、衛生士さんが口腔ケアに来て頂きスタッフへのご指導やアドバイスを受たり、誤嚥性肺炎の予防に務めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人で時間を見ながらトイレの声かけを行うようにしている。不快感のないように、就寝時、起床時には陰部洗浄を行うようにしている。	ホーム内には4か所のトイレが備わっており、入居者は居室の近くなど使い慣れた場所を使用されている。個々のパターンに応じて声掛けや誘導を行い、失敗のないことで不快感なく過ごせるようにしている。現在ポータブルトイレを使用される方もおられ、清潔に管理することで気持ちの良く使えることや居室内にも臭気がないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが困難になっているのが現実にある。担当Drや訪問看護との相談・指示のもと下剤の調整など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯が勤務体制でなかなか一人ひとりに合わせての対応は出来ていない。本人様には確認をとり気分が進まない時には時間をおいて再度お誘いしたり、後日提供するようにしている。	勤務体制の面から、希望に応じた入浴支援には限りがあるが、週2～3回、午後を中心にゆっくりとした支援に努めている。浴槽への入浴が困難な方には、リフト浴により支援している。着替えの準備や洗身など入居者のできることを支援することで、自信や自分のペースで楽しんでもらえるようにしている。気分が進まない方には、時間をおいたり後日に変更するなど無理強いをせずに支援している。	管理者は入居者に楽しい入浴の時間を持ってもらえるよう、でき得る季節湯や変わり湯についても意欲を語っており、実現に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の体調をみながら昼寝をしてもらったり、座りっぱなしになっている方には、声を掛けてみるようにしている。加湿器やエアコンの空調にも注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の変更などの時は、申し送りノートに書き、その後の様子や気づきを記録に残すよう伝えている。誤薬のないよう再確認をスタッフ二人でしていたが、しなくなっているため、意識づけが必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前は農家をされていた方にお話しを聞いて畑や花の苗を植えて頂いたり、草取りなどお願いするとお手伝いをしてもらっている。スタッフのお願いの仕方も指示的なものにならないように気を付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や買い物を好まれる利用者様も多いため、出来るだけ外出の機会を設け気分転換できるように考えている。外出を好まれない方・要望を言われない方の支援を工夫するのが課題である。	近隣の散歩や買い物をはじめ、「好きだった地元の山に行ってみよう！」「100歳を越された方の外出の要望「日奈久に行きたい！」など、可能な限り対応している。また、行きつけの理美容室にも職員による支援が行われている。ラン判応援やガメ見物など外出時の写真はホーム内に掲示されている。自宅へ帰省などの機会は少なくなっているが、正月に外泊をされ家族とのひと時を過ごされた方もおられる。	ホームの庭先(駐車場)は地元特産のトマトハウスを見たり近隣者との会話も楽しめることから、今後も外気浴の場所として取り組まれることを期待したい。今後も地域や家族の協力を得ながら入居者が戸外に出る機会を支援していきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で現金を管理されている方はいらっしゃらない。買い物に行かれても「お金を持っていない」と心配される方もいるため、自分の買い物の時はお支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話や手紙のやりとりをされている方はいらっしゃらないが、不安などある方はご家族へのお電話対応をお願いしていた。ご家族以外は個人的な事もあるため、詳しくご家族への確認も必要になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事での写真を見やすい位置に貼ったり、季節感のある飾り物をかざるようにしている。だがコード線なども多く、物の整理整頓が課題である。	入居者が日中のほとんどを過ごすリビング食堂は、状況に応じてソファの位置などを検討し、寛いで過ごせるようにしている。対面式の台所からは、音や匂いが入居者の五感に伝わり、会話のきっかけにもなっている。直近の外出やイベント、行事食などの写真を掲示することで、季節を感じることができ、家族をはじめ来訪者も楽しみにされている。また、洗面台の壁には職員一人ひとりの目標を掲示し、自身が居心地の良い環境となれるよう努力している。	課題にあげている物品の整理整頓は転倒などの危険に加え、有事の際の避難などにも通ずることから、日ごろの環境整備として取り組まれることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分がのらない時などは、尋ねて居室で話を聞いたり、利用者様同士、口論になった時はスタッフが入り、畳の部屋などでゆっくりしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	何度か居室での転倒が続いたので、安全性も考えマットを敷いたり、家具の置き方にも注意しながら、ご本人様が快適に過ごせるように工夫している。	本人にとって安心して過ごせる居室となるよう、大切にしてきたものや使い慣れたもの、仏壇の持ち込みも可能であることを伝えている。入居後も必要な品があればその都度家族へ伝えているが、面会時などに不足の品がないか尋ねられる方もおられるようである。広めの居室はベッドの部屋がほとんどであるが、身体状況に応じ畳敷きに布団で就寝される方もおられる。季節外の寝具の持ち帰りは少なく、押し入れで管理しており、天候の良い日は努めて日光干しや定期的なシーツの洗濯により清潔に管理し、安眠につなげている。	衣類ハンガーや家具、机や椅子など入居者にとって必要な品であり、職員は転倒などないよう安全面に配慮した配置に努めている。今後も一人ひとりの入居者にとっての居心地の良さを検討し、家族の協力を得ながら進めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の安全を強く考えてしまい、出来る事までスタッフががしてしまっているのが現状である。		